主なニュース

- ❷面　東急・渋谷駅周辺3開発を披露
- ❸面　都議選告示日・野田、玉木、石丸ら応援
- ❹❺面　都議選候補者に緊急アンケート
- ❻面　区民に開かれた新宿区医師会
- ❽面　副都心・人手不足で遅れる駅前開発

ホームページ　http://www.shinjuku-shinbun.co.jp

週刊　**新宿新聞**　THE SHINJUKU SHINBUN

6月15日
2025年（日曜日）
（第2209号）

発行所　株式会社新宿区新聞社
編集・発行人　喜田　勇
新宿区西新宿7－7－25
ワコーレ新宿第2ビル

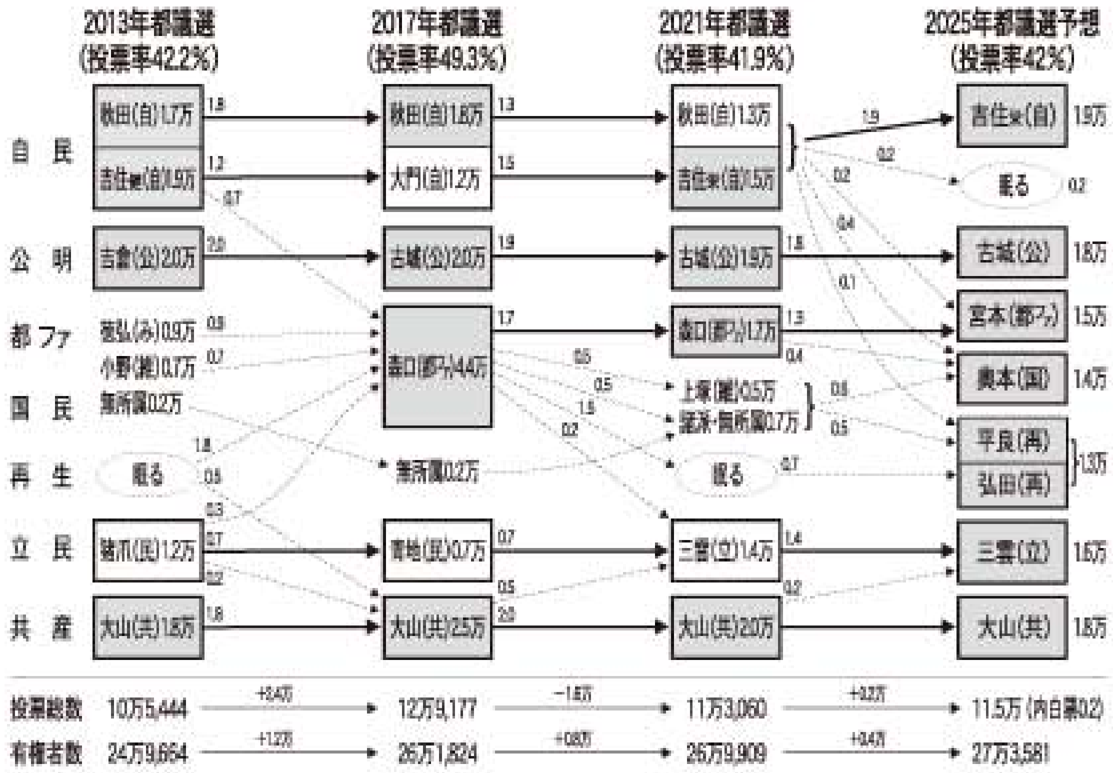
社章

購読料6ヵ月4,000円、毎月1日・15日発行、創刊70周年　☎3369－6195　FAX3369－0759　（昭和32年12月4日第3種郵便物認可）

「政治とカネ」尾を引く選挙

22日投票の都議選。直後の7月には参院選も控え、国政選挙に与える影響も大きい。そうした中、都議会第1党の自民（公認候補42人）は都連のパーティー券不記載問題を抱え、逆風下の選挙。一方、国民民主は18人、再生の道は42人の候補者をそれぞれ擁立し、自民から離れた保守層の取り込みをめざした選挙だ。都議選の中でも大激戦区として注目されるのが新宿選挙区（定数4）だ。自民、都ファ、公明、共産、立民、国民、再生（2人）など有力政党の候補が出揃ったからだ。現状は現職の自民・吉住、公明・古城、共産・大山がリード。新人の立民・三雲がその後を追い、都ファ・宮本、国民・奥本の新人2人が追う展開となっている（敬称略）。

都議選　新宿選挙区



自民候補の合計票は13年選挙が3・6万。それが、都ファが出現した17年選挙には2・9万票まで落ち込み、21年選挙でも2・8万票と回復しなかった。

都ファは小池知事旋風を起こした17年都議選は4・4万を大量得票。21年選挙は1・7万と半分以下に票を減らした。

公明票は2万前後で推移。立民は党勢や候補者によって票は大きく変動。共産票も1・8万～2・5万と変化している。

〈都議選新宿選挙区〉

吉住　栄郎	（52）	自民・現職
宮本　せな	（34）	都ファ・新人
古城　将夫	（45）	公明・現職
大山とも子	（69）	共産・現職
三雲　崇正	（48）	立民・新人
奥本　有里	（48）	国民・新人
平良　雄大	（38）	再生・新人
弘田　敬康	（44）	再生・新人

古城、大山が優勢
圏内の吉住は「地盤」細る
当選圏内の4番手争い　三雲浮上、宮本ら追う

自民都連のパーティー券の不記載問題を抱え、逆風下の自民。政治資金の透明化を徹底化する党内改革を打ち出すが、他党は政治改革への対応は後ろ向きと批判。定数4の選挙区は従来、2人以上の公認候補を擁立するルールだったが自民都連側は選挙区ごとの支部の判断で1人でも可とした。その結果、定数4の5選挙区は、新宿、葛飾、品川、町田、江東（不記載の自民都連幹事長は無所属出馬なので公認上はゼロ）はいずれも候補者を1人に絞る「防御」選挙となった。

▼自民・吉住、候補1人に絞り逃げ切りめざす

新宿選挙区（定数4）は2期目をめざす現職の吉住栄郎（パーティー券の46万円の不記載あり）を擁立した。

4年前の前回都議選は2人候補者を立て、吉住栄郎（4位当選）が1・5万票、秋田一郎（落選）が1・3万票で計2・8万票を得票していた。

都議選同様、「政治とカネ」の問題が焦点となったのが昨年の衆院選。そこでは21年の前回衆院選に比べ新宿区内の自民政党比例票は27％（3・4万票）減少した。候補を1人に絞ったことによる得票数の"減"も加味すると、都議選においては自民票は前回の2・8万票より3分の1程度（0・9万）の票の流出が予想される。

吉住はそれでも当選ライン（1・5～1・6万票）を上回る1・9万票前後の票に届く。備蓄米放出による小泉効果の自民支持率上昇もあり、2万超えもめざせる状況だ。だが「政治とカネ」への自民批判の声はいまだ大きい。"票"の動きは流動的で予断を許さない情勢だ。

吉住はトー横キッズ問題をはじめて都議会で取り上げた。また自民都連によるユーチューブ動画の中で「学校給食無償化」「高校授業料の無償化」などの小池都知事の手腕を評価する一方、「戸建て住宅の太陽光パネルの設置義務化」への反対（自民会派）、「都庁舎のプロジェクションマッピングは取りやめた方がいい」と語るなど、小池与党に属しながらも小池都政のチェックを図ることも自民の役割だと訴え、存在感を示す。

▼現職の公明・古城、共産・大山は当選圏内に

3期目をめざす公明・古城将夫、9期目をめざす共産・大山とも子は当選圏内に届く勢いがある。公明、共産共に組織力は前回より落ち込んでいるのが懸念材料だ。

小池知事は今回、都ファ、公明候補を応援（立川）

公明は都知事に働きかけシルバーパスの今年秋からの4割減を実現。古城は都庁前の4号街路から中央公園に直接行けるための横断歩道整備を議会で訴え新宿西口の「空間再編計画」に盛り込むことを実現し支持者からは実績が評価。16日の高田馬場の街頭演説には小池知事も応援にかけつけた。

一方、共産・大山は党幹事長を長く務め、現在は団長の実力者。子育て支援は初当選時から訴え、野党の立場から都政に対し、様々な形で影響を与えてきた。都庁舎のプロジェクションマッピング、お台場の巨大噴水などを批判、反小池票を取り込んでいる。

衆院選政党比例票（新宿）

	21年衆院選（投票率55.99％）	24年衆院選（投票率54.63％）
自民	46,737票	34,228票
立民	27,606票	28,576票
国民	7,167票	21,920票
維新	22,483票	13,564票
公明	15,489票	12,422票
共産	17,365票	12,353票
れいわ	8,715票	9,827票

無党派票の争奪戦

都ファ、国民で票は"分断"
立民・三雲　れいわ層にも支持拡大

自民から流出する保守系無党派票を狙うのが都民ファーストの宮本せな、国民民主の奥本有里、再生の道の平良雄大、弘田敬康の4人の新人候補だ。都ファは特別顧問の小池百合子知事、国民は玉木雄一郎代表、再生は石丸伸二代表の人気が候補票を左右している。現状、都ファ・宮本、国民・奥本は"票"を喰い合う状況。この2人に立憲民主の新人・三雲崇正も加わり、三つ巴の争いだ。

一方、再生は街頭演説に石丸が登場した6月上旬以降も支持の伸びがやや弱い。また新宿は複数候補擁立が裏目に。現状は共倒れが濃厚だ。

▼立民・三雲は支持に広がり

都ファ・宮本、国民・奥本との三つ巴の争いで現状、一歩抜け出るのが立民・三雲崇正（元新宿区議）だ。21年の前回都議選では917票差の惜差で、次点で惜敗。今回は立民のほか社民、れいわ支持層にも支持が広がりをみせている。少子化対策では若い人に活力を生み出す施策を推進。都庁舎のプロジェクションマッピング、お台場の噴水のムダなどを上げ二元代表制の観点から小池都政のチェック機能を果たすことを訴える。

▼都ファ・宮本に小池知事が相次ぎ応援

この三雲に続くのが都ファ・宮本せな。ネットの人気番組「令和の虎」にセナ社長として出演。ホワイトニングサロンの経営者で2児の母だ。現職の森口つかさが引退するのを受け、候補擁立。子育て支援、中小企業応援、女性活躍支援を訴える。小池知事の宮本への期待も大きい。告示前の政治活動では総決起集会に加え小集会にも小池都知事が直接訪れエールを送った。都ファは過去の選挙はいずれも最終盤で票を伸ばした。逆転の目を残している。

▼国民・奥本は台風の目

国民・奥本有里は公認候補が決まったのは告示わずか3週間前の5月21日。新宿選挙区は「103万円の壁」で支持率を急上昇させた国民の候補擁立によって激戦区に。奥本は一躍「台風の目」となった。国民・玉木代表は告示日初日の13日、四谷三丁目交差点で街頭演説。奥本を後押しした。気がかりは参院選の候補擁立を契機とした国民の支持率減。奥本は元大田区議（当時は都ファ）。いじめ不登校対策や水道料金の恒久的な引き下げなどを訴える。

▼再生は新たな層を開拓

政治屋の一掃を掲げる「再生の道」は2期8年以外の党議拘束を持たない。「党の政策が見えない」との声が上がる一方、「政治を変えてくれる」と選挙にこれまで行かなかった層を開拓してきた。課題は人気が石丸伸二代表に集中、候補者の浸透がいま一つ進まないことだ。新宿から出馬の再生・平良は売上1兆円規模の企業予算を作っていた手腕、弘田は幅広い分野でのコンサルティングの実績を生かした政策の推進を訴えている。